

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



日本を代表する劇作家で評論

家の山崎正和さんが、8月19日に兵庫県内の病院で亡くなりました。享年86。死因は、悪性中皮腫との発表です。我々の肺や胃腸や心臓は、表面を胸膜、腹膜、心膜などの薄い膜で守られています。この膜を中皮とい

い、中皮細胞にできた腫瘍が中皮腫です。稀ながんですが、死亡者はこの25年で3倍以上に増えています。

中皮腫の発症原因として、アスベスト(石綿)暴露が知られています。軽くて加工しやすい天然鉱物繊維で、1970〜80年代に断熱材として広く使われていました。2000年代に次々と健康被害が報告されるようになりまし

た。アスベストを吸入してから中皮腫の発症まで約40年もかかります。そして中

169 劇作家・評論家 山崎正和



皮腫の死亡率が一番高いのは、私の地元・兵庫県。山崎さんは西宮市在住でした。大手機械メーカーの工場がある尼崎市で、多数の被害者が出ています。私も尼崎で今まで10人以上の中皮腫の人を自宅で見取りました。胸膜中皮腫は肺が

んよりも緩徐(かんじょ)な進んだ衝動の共存である」と考察されています。今年1月の産経新聞のインタビューでは、実の弟さんが孤独死されたと言っていました。

「内科医だった私の弟が孤独死していた。この記事を、深く頷きながら読みました。コロナ禍でいま孤独に怯えている人は、山崎さんの著書に触れてほしいと思います。孤独は、思考を深める良薬。毒ではありませんよ。」

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

行なので、肺がんの人よりも長いお付き合いができます。新しい抗がん剤や手術法が日進月歩で研究されているので大いに期待しています。

私は、山崎さんの熱心な読者ではありませんでしたが、その時代時代に、鋭い考察をされていたことは知っています。

「不幸とか可哀想だとも思いません」(中略) 私は自分が死ぬときも、枕元でどうですか、ああですかと言われ続けるのは嫌です。死ぬときくらい放っておいて、言つてしまおう。孤独と死を一括りにするのは、新聞のセンチメンタリズムではないでしょうか。

弟の孤独死にも鋭い考察